

「08年新入社員意識調査」より

入社動機は、「企業イメージがよい」が急増

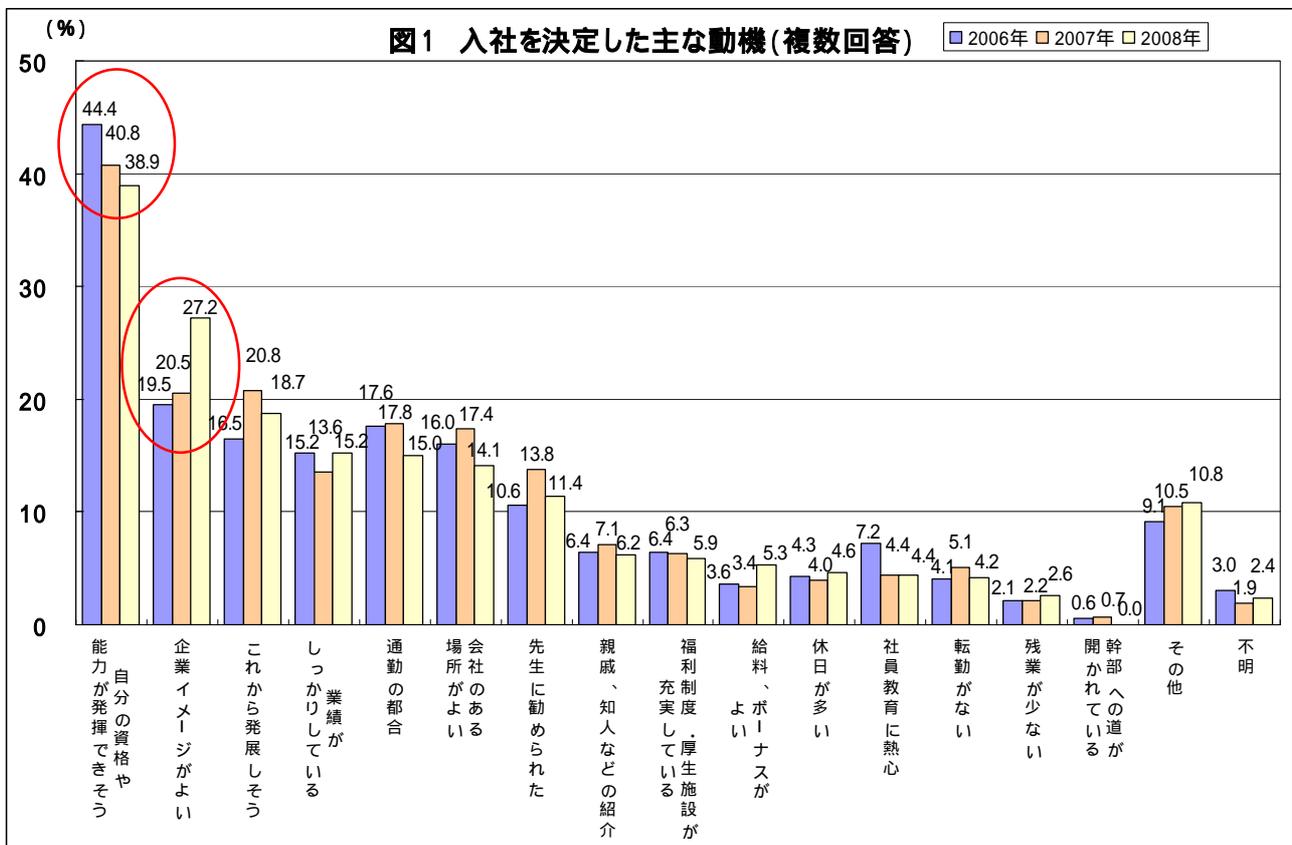
今年も多くの新入社員が、社会人として新たな一歩を踏み出した。当社では、毎年3月から4月にかけて、県内企業の新入社員を対象にアンケート調査を実施している。今年の調査結果（有効回答数 545 名、うち男性 289 名、女性 256 名）から、新入社員の仕事に対する意識をみてみたい。

入社の動機として「企業イメージがよい」が増加

「入社を決定した主な動機」を尋ねたところ、「自分の資格や能力が発揮できそう」が 38.9% で最も多く、次いで、「企業イメージがよい」(27.2%)、「これから発展しそう」(18.7%) となった(図1)。

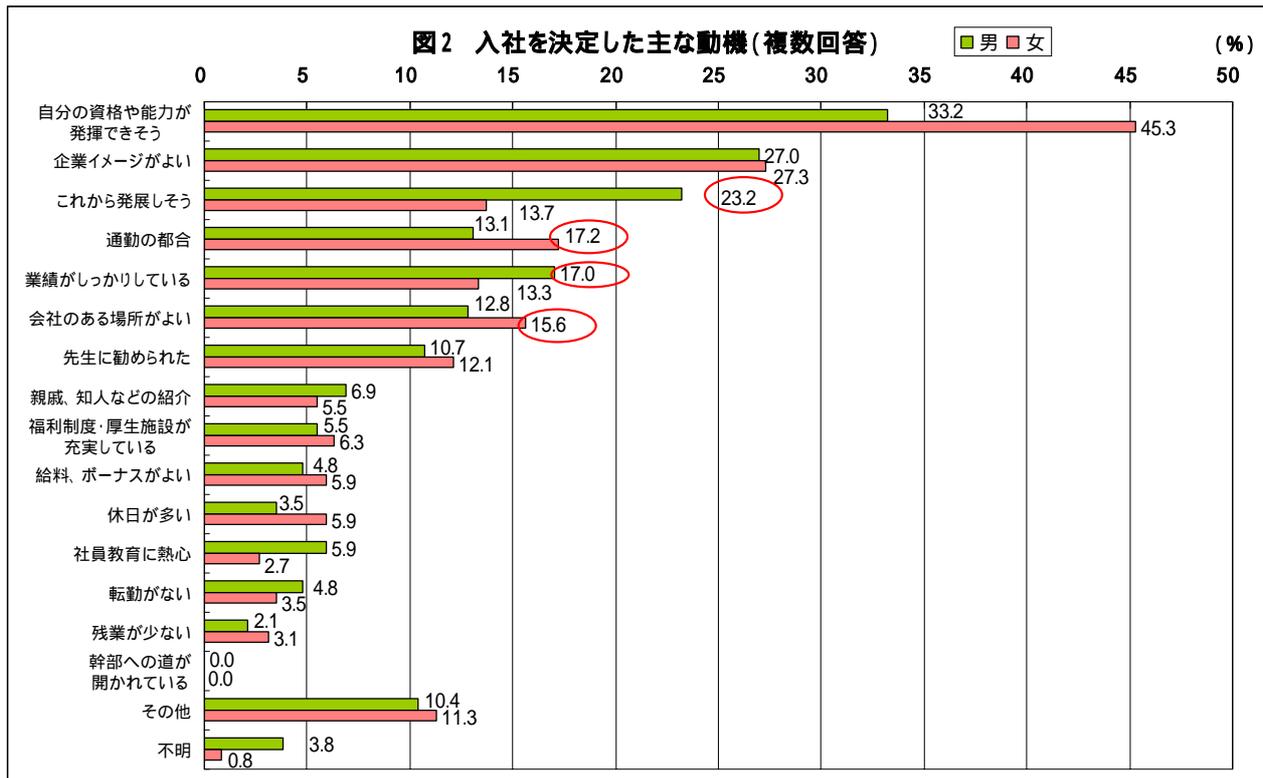
昨年、一昨年の回答と比べると、「自分の資格や能力が発揮できそう」は減少しており(44.4% 40.8% 38.9%)、一方で、「企業イメージがよい」との回答は、2年前と比べて7.7ポイントも増加している(19.5% 20.5% 27.2%)。

さまざまな業界で不祥事が相次ぐ中、保有資格や能力が生かせることに加え、「企業イメージがよい」ことが入社を決定する大きな動機となっているようだ。



同じ設問を男女別で見ると、男女とも「自分の資格や能力が発揮できそう」が最も多く（男性 33.2%、女性 45.3%）、次いで、「企業イメージがよい」となった（男性 27.0%、女性 27.3%）（図 2）。

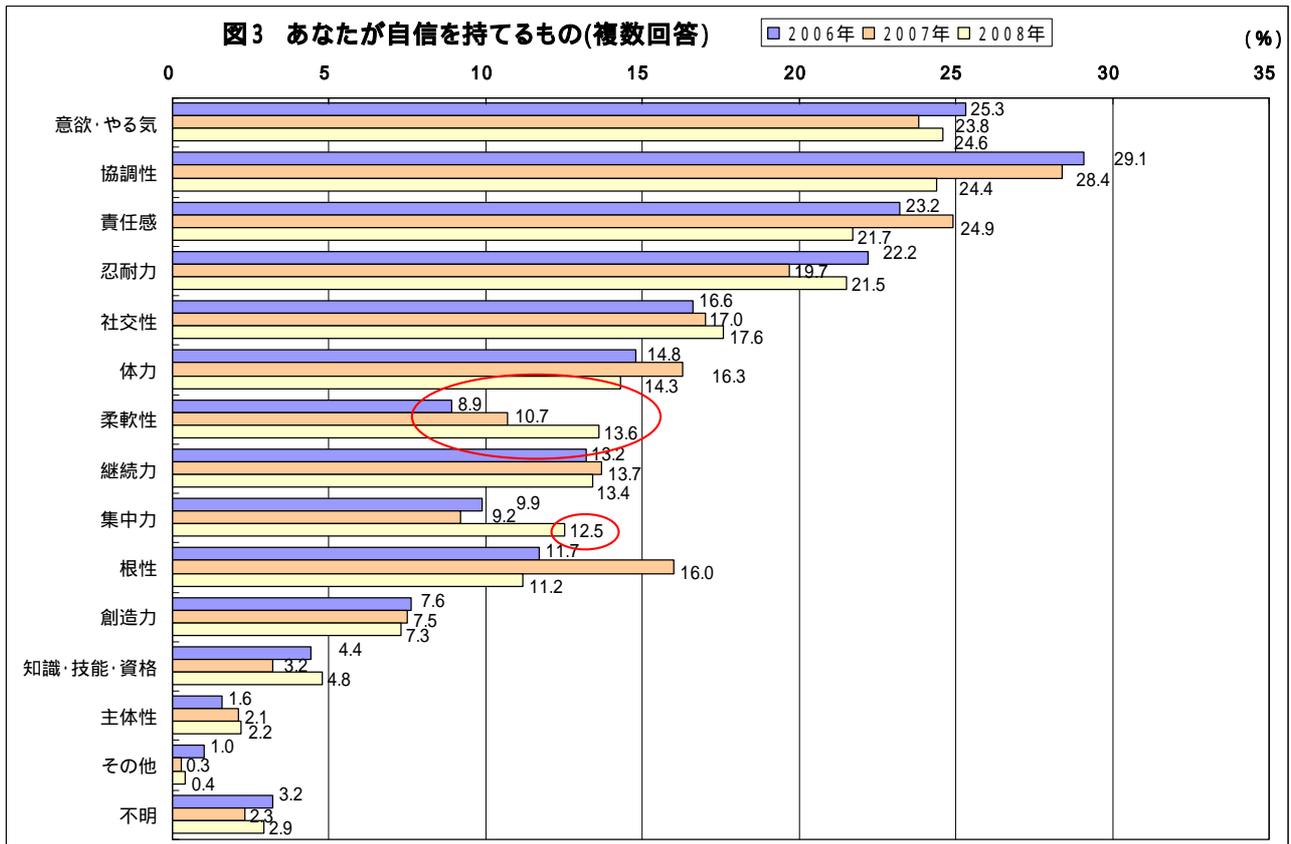
続いて、男性は「これから発展しそう」（23.2%）、「業績がしっかりしている」（17.0%）となり、企業の将来性も視野にいれて入社する会社を決める傾向にある。一方、女性は「通勤の都合」（17.2%）、「会社のある場所がよい」（15.6%）と続き、入社後の通勤時間なども考えているようだ。



「意欲・やる気」を持ち、「集中力」や「柔軟性」に自信あり

次に、「社会人として必要なもののうち、あなたが自信を持てるもの」については、「意欲・やる気」が最も多く（24.6%）、「協調性」（24.4%）、「責任感」（21.7%）と続いた（図3）。

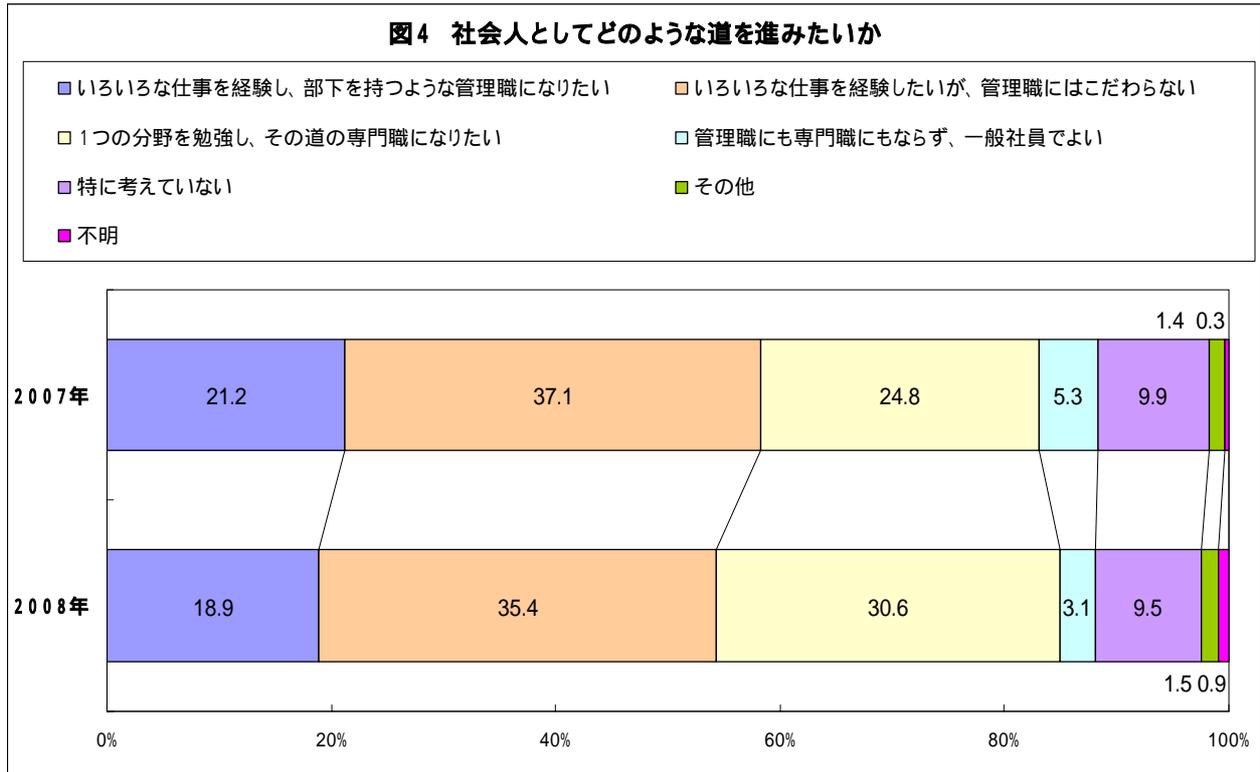
3年間で比較すると、「協調性」は減少しているが（29.1% 28.4% 24.4%）、一方、「柔軟性」や「集中力」は増加傾向にあるといえる（それぞれ8.9% 10.7% 13.6%、9.9% 9.2% 12.5%）。



社会人として、“1つの分野の専門職になりたい”が増加

また、「社会人としてどのような道に進みたいか」と尋ねると、「いろいろな仕事を体験したいが、管理職にはこだわらない」が35.4%で最も多いものの、昨年と比べると、1.7ポイント減少した（図4）。

次いで、「1つの分野を勉強し、その道の専門職になりたい」となり、昨年より5.8ポイント増加した（24.8% 30.6%）。今年の新入社員は、1つの分野にこだわりを持ってスキルを磨き、その道のプロになりたいと考えているようだ。

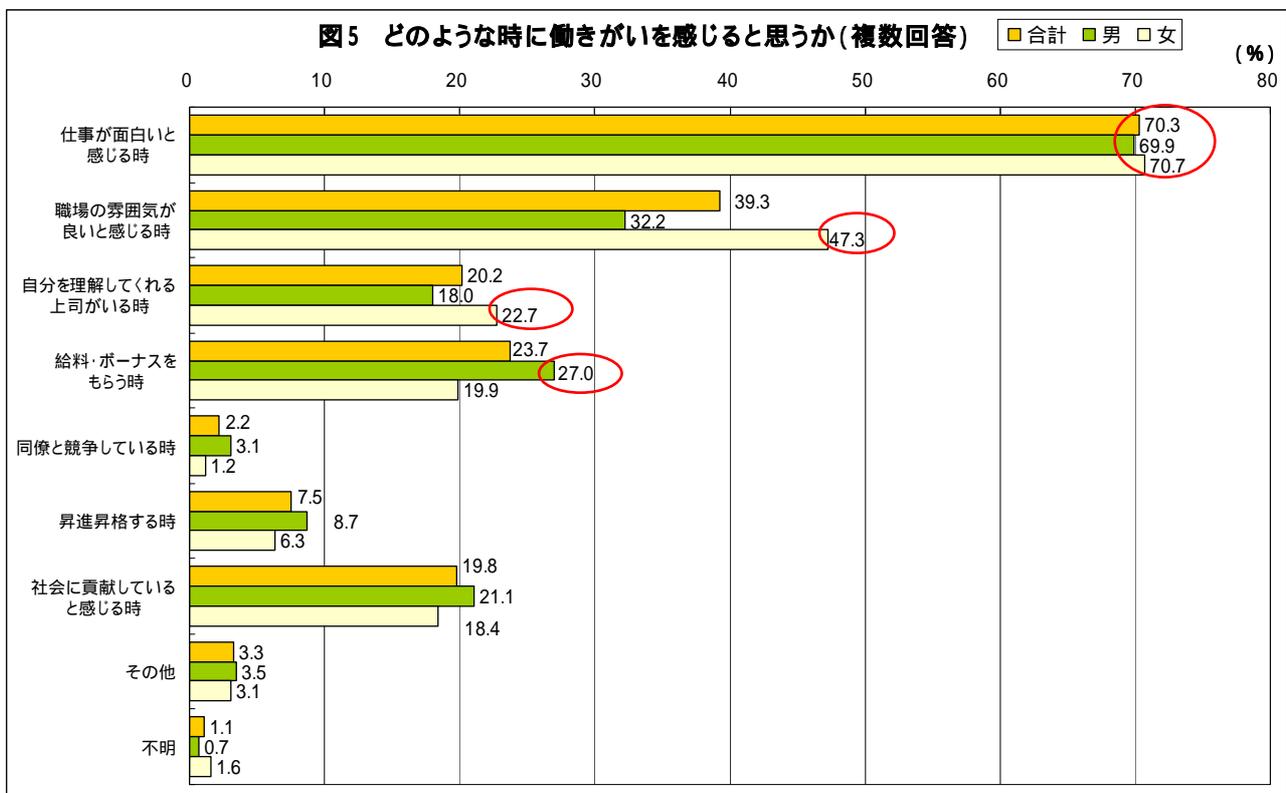


“働きがい”について、女性は精神面も重視

また、「どのような時に働きがいを感じると思うか」の問いには、約7割（70.3%）が「仕事がおもしろいと感じる時」、次いで、約4割（39.3%）が「職場の雰囲気が良いと感じる時」と答えた(図5)。

「職場の雰囲気が良いと感じる時」という回答については、女性の方が男性よりも15.1ポイントも高くなっている(男性32.2%、女性47.3%)。さらに、「自分を理解してくれる上司がいる時」についても、女性が4.7ポイント高くなっている(男性18.0%、女性22.7%)。女性は仕事に対する充実感とともに、精神的な面も重視していることがわかる。

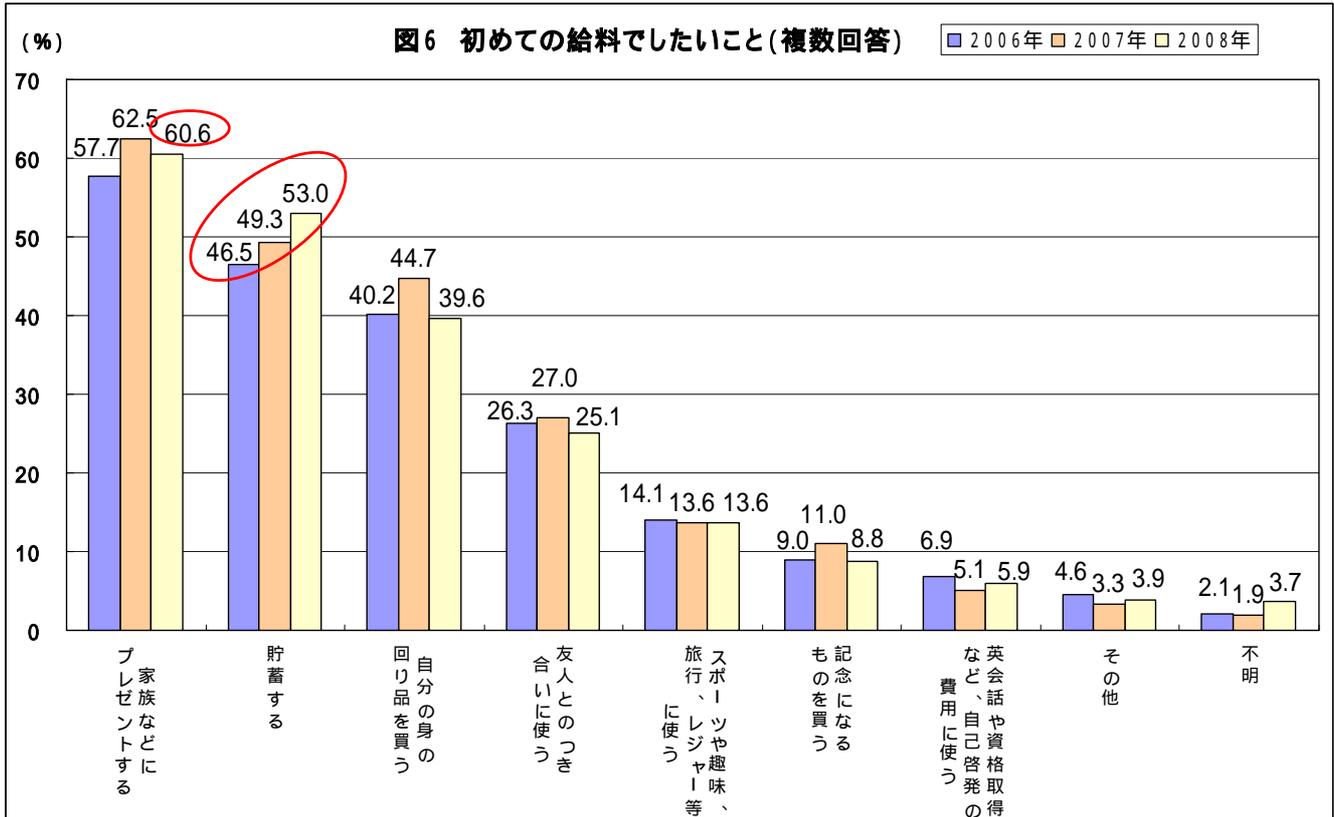
男性は、「給料・ボーナスをもらう時」との回答が、女性より7.1ポイント高く(男性27.0%、女性19.9%)、実際にもらえる報酬が働きがいにつながると考えているようだ。



初めての給料は「家族などにプレゼントする」がトップ

「初めての給料でしたいこと」は、「家族などにプレゼントする」が最も多く（60.6%）、「貯蓄する」（53.0%）、「自分の身の回り品を買う」（39.6%）と続いた（図6）。

「家族などにプレゼントする」が最も多いものの、「貯蓄する」との回答は年々増加し、今年は5割を超えた（46.5% 49.3% 53.0%）。「自分の身の回り品を買う」が昨年より5.1ポイント減少しており（44.7% 39.6%）、その分を貯蓄にまわすことを考えているようだ。



理想の上司は「イチロー」「和田アキ子」

「理想とする上司像を有名人に例えると」の問いには、男性の上司としては、米大リーグ・シアトルマリナーズ外野手の「イチロー」(男性27人、女性17人)が3年連続で1位。女性の上司では歌手の「和田アキ子」(男性21人、女性7人)が1位となった(表1)。

「その有名人を選んだ理由」を尋ねると、「イチロー」を選んだ理由として、男性は「仕事ができそう」(11人)が最も多く、「率先して手本を見せてくれそう」(10人)「頼りになりそう」(8人)と続いた。女性は、「率先して手本を見せてくれそう」「目標ややり方をはっきり示してくれそう」(それぞれ7人)が多く、「仕事ができそう」(5人)となった。

「和田アキ子」は、男性からの支持が圧倒的に高く、選んだ理由としては、「厳しく指導してもらえそう」(11人)「頼りになりそう」(10人)「面倒見がよく、何でも相談できそう」(9人)と続き、女性は「厳しく指導してもらえそう」(5人)「部下の意見に耳を傾けてくれそう」(3人)「面倒見がよく、何でも相談できそう」(2人)となった。

仕事ができ、頼りになるところの手本を見せてくれ、厳しい指導だけでなく、意見を聴いてくれたり相談できる上司を求めているようだ。

表1 理想の上司像

男性の上司	回答数(人)	順位	女性の上司	回答数(人)
イチロー	44	1	和田アキ子	28
島田紳助	32	2	篠原涼子	27
星野仙一	29	3	久本雅美	23
所ジョージ	24	4	黒木瞳	22
東国原英夫	10	5	真矢みき	11

積極的な挑戦と“協調性”“柔軟性”に期待

今年の新入社員には、やる気を持って積極的に挑戦し、協調性や柔軟性をフルに発揮し、そして自らが、職場の雰囲気や企業そのもののイメージを変えていく意気込みで取り組んでもらいたいものだ。また、企業側も、新入社員のフレッシュな感覚や意見を理解し取り入れることで、さらに意欲を引き出し、活躍できるような職場づくりとチャンスの提供が求められているといえよう。

2008年6月2日

しがぎん経済文化センター

堀 有美子